

新規採用・削除医薬品等通知

新規採用医薬品通知

(薬品名)	ジビイ静注用 2000	生物
(英名)	Jivi for iv injection	
(規格・含有量)	1 バイアル中ダモクトコグ アルファ ペゴル(遺伝子組換え)2000 国際単位含有	
(一般名)	ダモクトコグ アルファ ペゴル(遺伝子組換え)	
(メーカー名)	バイエル薬品株式会社	
【薬価収載日】	2018 年 11 月	
【薬価】	262,230 円	
【薬効コード】	876349	
【薬効分類名】	ペグ化遺伝子組換え型血液凝固第Ⅷ因子製剤	
効能・効果	血液凝固第Ⅷ因子欠乏患者における出血傾向の抑制	
用法・用量	本剤を添付の溶解液全量で溶解し、緩徐に静脈内注射する。なお、1分間に2.5mLを超える注射速度は避けること。 通常、12歳以上の患者には、1回体重1kg当たり10～30国際単位を投与するが、患者の状態に応じて適宜増減する。 定期的に投与する場合、通常、12歳以上の患者には、体重1kg当たり30～40国際単位を週2回投与するが、患者の状態に応じて、体重1kg当たり45～60国際単位を5日に1回投与、又は体重1kg当たり60国際単位を週1回投与することもできる。	
禁忌	記載なし	
相互作用	記載なし	
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー	

(薬品名)	ザバクサ配合点滴静注用	市販直後調査:2019年6月～2019年12月
(英名)	ZERBAXA Combination for Intravenous Drip Infusion	
(規格・含有量)	1 バイアル中タゾバクタムナトリウム 537mg(タゾバクタムとして 500mg)/セフトロザン硫酸塩 1,147mg(セフトロザンとして 1,000mg)	
(一般名)	タゾバクタムナトリウム・セフトロザン硫酸塩	
(メーカー名)	MSD 株式会社	
【薬価収載日】	2019 年 2 月	
【薬価】	6,430 円	
【薬効コード】	876139	
【薬効分類名】	β-ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤	
効能・効果	〈適応菌種〉本剤に感性のレンサ球菌属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、緑膿菌 〈適応症〉膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、肝膿瘍	
用法・用量	通常、成人には1回1.5g(タゾバクタムとして0.5g/セフトロザンとして1g)を1日3回60分かけて点滴静注する。 なお、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、肝膿瘍に対しては、メロニダゾール注射液と併用すること。	
禁忌	(1)本剤の成分又はセフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者 (2)他のβ-ラクタム系抗生物質(ペニシリン系、カルバペネム系等)に対し重篤な過敏症(アナフィラキシー、重度の皮膚反応等)の既往歴のある患者	
相互作用	本剤の半減期が延長し、血漿中濃度を上昇させるおそれがある プロベネシド	
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー、クロストリジウム・ディフィシル大腸炎、急性腎障害	

(薬品名)	ゾルトファイ配合注フレックスタッチ	劇	市販直後調査:2019年9月~2020年3月
(英名)	Xultophy combination injection FlexTouch		
(規格・含有量)	1筒(3mL)中 インスリン デグルデク(遺伝子組換え):300単位(1800nmol)リラグルチド(遺伝子組換え):10.8mg		
(一般名)	インスリン デグルデク(遺伝子組換え) リラグルチド(遺伝子組換え)		
(メーカー名)	ノボ ノルディスク ファーマ株式会社		
【薬価収載日】	2019年9月		
【薬価】	5,359円		
【薬効コード】	873969		
【薬効分類名】	持効型溶解インスリンアナログ/ヒトGLP-1アナログ配合注射液		
効能・効果	インスリン療法が適応となる2型糖尿病		
用法・用量	通常、成人では、初期は1日1回10ドーズ(インスリン デグルデク/リラグルチドとして10単位/0.36mg)を皮下注射する。投与量は患者の状態に応じて適宜増減するが、1日50ドーズ(インスリン デグルデク/リラグルチドとして50単位/1.8mg)を超えないこと。注射時刻は原則として毎日一定とする。なお、本剤の用量単位である1ドーズには、インスリン デグルデク1単位及びリラグルチド0.036mgが含まれる。		
禁忌	<ol style="list-style-type: none"> 1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2 低血糖症状を呈している患者 3 糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡、1型糖尿病患者[インスリンのみを含有する製剤による速やかな治療が必須となるので、本剤を投与すべきでない] 4 重症感染症、手術等の緊急の場合[インスリンのみを含有する製剤による血糖管理が望まれるので、本剤の投与は適さない] 		
相互作用	<p>低血糖症状があらわれることがある 糖尿病用薬(ビグアナイド薬、スルホニルウレア薬、速効型インスリン分泌促進薬、α-グルコシダーゼ阻害薬、チアゾリジン薬、DPP-4阻害薬、SGLT2阻害薬等)、モノアミン酸化酵素(MAO)阻害剤、三環系抗うつ剤(ノルトリプチリン塩酸塩等)、サリチル酸誘導体(アスピリン、エテンザミド)、抗腫瘍剤(シクロホスファミド水和物)、β-遮断剤(プロプラノロール塩酸塩、アテノロール、ピンドロール)、クマリン系薬剤(ワルファリンカリウム)、クロラムフェニコール、ベザフィブラート、サルファ剤、シベンゾリンコハク酸塩、ジソピラミド、ピルメノール塩酸塩水和物</p> <p>高血糖症状があらわれることがある チアジド系利尿剤(トリクロルメチアジド)、副腎皮質ステロイド(プレドニゾン、トリアムシノロン)、ACTH(テトラコサクチド酢酸塩)、アドレナリン、グルカゴン、甲状腺ホルモン(レボチロキシンナトリウム水和物)、成長ホルモン(ソマトロピン)、卵胞ホルモン(エチニルエストラジオール、結合型エストロゲン)、経口避妊薬、ニコチン酸、濃グリセリン、イソニアジド、ダナゾール、フェニトイン</p> <p>低血糖症状又は高血糖症状があらわれることがある 蛋白同化ステロイド(メテロン)、ソマトスタチンアナログ製剤(オクトレオチド酢酸塩、ランレオチド酢酸塩)</p>		
副作用	<p>重大な副作用 低血糖、アナフィラキシーショック、膵炎、腸閉塞</p> <p>その他 便秘</p>		

(薬品名)	ロナセンテープ 20mg・40mg	劇	市販直後調査:2019年9月~2020年3月
(英名)	LONASEN		
(規格・含有量)	1枚中プロナンセリン 20mg・40mg		
(一般名)	プロナンセリン		
(メーカー名)	大日本住友製薬株式会社		
【薬価収載日】	2019年9月		
【薬価】	20mg 273.60円・40mg 511.20円		
【薬効コード】	871179		
【薬効分類名】	抗精神病剤		
効能・効果	統合失調症		
用法・用量	通常、成人にはプロナンセリンとして40mgを1日1回貼付するが、患者の状態に応じて最大80mgを1日1回貼付することもできる。 なお、患者の状態により適宜増減するが、1日量は80mgを超えないこと。 本剤は、胸部、腹部、背部のいずれかに貼付し、24時間ごとに貼り替える。		
禁忌	(1)昏睡状態の患者〔昏睡状態が悪化するおそれがある。〕 (2)バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者〔中枢神経抑制作用が増強される。〕 (3)アドレナリンを投与中の患者(アドレナリンをアナフィラキシーの救急治療に使用する場合を除く) (4)アゾール系抗真菌剤(外用剤を除く)(イトラコナゾール、ボリコナゾール、ミコナゾール、フルコナゾール、ホスフルコナゾール)、HIVプロテアーゼ阻害剤(リトナビル、インジナビル、ロピナビル・リトナビル配合剤、ネルフィナビル、サキナビル、ダルナビル、アタザナビル、ホスアンプレナビル)、テラプレビル、コビススタットを投与中の患者 (5)本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		
相互作用	重篤な血圧降下作用 アドレナリン(アナフィラキシーの救急治療に使用する場合を除く)(ボスミン) 本剤作用増強 CYP3A4を強く阻害する薬剤アゾール系抗真菌剤(外用剤を除く)イトラコナゾール(イトリゾール)、ボリコナゾール(ブイフェンド)、ミコナゾール(フロリード)、フルコナゾール(ジフルカン)、ホスフルコナゾール(プロジフ)HIVプロテアーゼ阻害剤リトナビル(ノービア)、インジナビル(クリキシバン)、ロピナビル・リトナビル配合剤(カレトラ)、ネルフィナビル(ビラセプト)、サキナビル(インビラーゼ)、ダルナビル(プリジスタ)、アタザナビル(レイアタツ)、ホスアンプレナビル(レクシヴァ)、テラプレビル(テラビック)、コビススタット(スタリビルド) CYP3A4阻害作用を有する薬剤(エリスロマイシン、クラリスロマイシン、シクロスポリン、ジルチアゼム等) 相互に作用増強 中枢神経抑制剤、アルコール 本剤作用減弱 ドパミン作動薬(レボドパ製剤、プロモクリプテン等)、CYP3A4誘導作用を有する薬剤(フェニトイン、カルバマゼピン、バルビツール酸誘導体、リファンピシン等) 降圧作用増強 降圧薬		
副作用	重大な副作用 悪性症候群(Syndrome malin)、遅発性ジスキネジア、麻痺性イレウス、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)、横紋筋融解症、無顆粒球症、白血球減少、肺塞栓症、深部静脈血栓症、肝機能障害、高血糖、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡 その他 パーキンソン症候群(振戦、筋強剛、流涎過多、寡動、運動緩慢、歩行障害、仮面様顔貌等)、アカシジア(静坐不能)、プロラクチン上昇、統合失調症の悪化、紅斑、そう痒感、体重増加		

(薬品名)	ケフレックスカプセル 250mg
(英名)	Keflex
(規格・含有量)	1 カプセル中 セファレキシン 250mg
(一般名)	セファレキシン
(メーカー名)	共和薬品工業株式会社
【薬価収載日】	1970年5月
【薬価】	31.5円
【薬効コード】	876132
【薬効分類名】	経口用セフェム系抗生物質製剤
効能・効果	<p><適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌</p> <p><適応症> ○ 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症 ○ 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎 ○ 骨髄炎、筋炎 ○ 咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染 ○ 膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症)、精巣上体炎(副睾丸炎) ○ 淋菌感染症、子宮頸管炎 ○ バルトリン腺炎、子宮内感染 ○ 涙嚢炎、麦粒腫、角膜炎(角膜潰瘍を含む) ○ 外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎 ○ 歯周組織炎、歯冠周囲炎、上顎洞炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染</p>
用法・用量	通常、成人及び体重20kg以上の小児にはセファレキシンとして1回250mg(力価)を6時間ごとに経口投与する。重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例には1回500mg(力価)を6時間ごとに経口投与する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
相互作用	記載なし
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー、急性腎障害、溶血性貧血、偽膜性大腸炎、中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群)、間質性肺炎、PIE 症候群 その他 発疹、蕁麻疹、紅斑、そう痒、発熱、リンパ腺腫脹、関節痛等

後発医薬品採用通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
<p>●12月3日より</p> <p>トアラセット配合錠「マルイシ」</p> <p>クロチアゼパム錠 5mg「サワイ」</p> <p>ペリンドプリル錠 4mg「日医工」</p> <p>ミグリトール錠 50mg「トーワ」</p> <p>エチゾラム錠 1mg「フジナガ」</p>	<p>トラムセット配合錠</p> <p>リーゼ錠 5mg</p> <p>コバシル錠 4mg</p> <p>セイブル錠 50mg</p> <p>デパス錠 1mg</p>

削除医薬品通知

<p>●12月3日より</p> <p>コバールトリイ静注用 250</p> <p>プロチアデン錠 25</p> <p>エリスパン錠 0.25mg</p> <p>オメガシン点滴用 0.3mg</p> <p>スオード錠 100</p> <p>ビデュリオン皮下注用 2mg ペン</p>	<p>12/3 削除</p> <p>12/3 削除</p> <p>12/3 削除</p> <p>12/3 削除</p> <p>12/3 削除</p> <p>12/3 削除</p>
--	---

販売中止に伴う医薬品変更通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
<p>●在庫消尽後</p> <p>アルファカルシドール錠 0.5μg</p>	<p>カルフィーナ錠 0.5μg</p>

適応追加通知

ペポタスチンベシル酸塩錠 10mg	<p>【効能・効果】</p> <p><成人> アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患に伴う痒痒(湿疹・皮膚炎, 痒疹, 皮膚痒痒症)</p> <p><小児> アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚痒痒症)に伴う痒痒</p> <p>【用法・用量】</p> <p><成人> 通常, 成人にはペポタスチンベシル酸塩として 1 回 10mg を 1 日 2 回経口投与する。 なお, 年齢, 症状により適宜増減する。</p> <p><小児> 通常, 7 歳以上の小児にはペポタスチンベシル酸塩として 1 回 10mg を 1 日 2 回経口投与する。</p>
-------------------	--